

# 変形性 膝関節症

## 桑園整形外科

札幌市中央区北8条西16丁目  
☎ 011・633・3636 <http://www.dr-azuma.net>



通常の人工関節置換術の傷は15～30センチ（左）、小皮切では5～9センチ

膝の痛みで悩んでいる患者は、日本国内で1000万人以上と言われ60歳以上の6割強が今後、膝痛を経験すると言われている。さ

かのおぼると、人類が二足歩行を獲得した時点で膝への負担が発生し、膝痛を発生させることは運命的なものだと考えられてきた。桑園整形外科の東裕隆院長は、膝痛の治療に優れた技術と知識を持つ整形外科の専門医だ。豊富な臨床経験を持ち、これまで膝に関する手術は2000例以上

術においては、道内はもとより国内でもトップレベルの手術数を誇る。病院全体でも、その数は年々増加傾向にあり2010年は149件、11年は7月現在で既に1000件を超えている。中でも、東院長の特徴的な手法である人工膝関節の小皮切（小さい切開傷で人工関節を膝に設置する手法）は、全国でも優れた手術技

術として高い評価を得ている。従来の人工膝関節置換術は、15～30センチの傷で筋肉組織も大きく切るため、術後の回復が遅く1～2カ月間の入院が必要だった。東院長が執刀する小皮切では、5～9センチ（平均7・5センチ）の傷で筋肉を切らずに手術をおこなうため、2～3週間で退院できるといふ。例外はあるが、ほとんどの患者が小皮切で対応できるという。また、この技術を習得しようとして、国内の多くの整形外科医が東院長の元を訪れているが、この治療法は知

識や経験、院内設備だけではなく執刀する医師の手の器用さも必要で、習得は容易ではないという。そのため、小皮切を実践できる医療機関は極めて少ない。同じ手術を受けるなら、小さな傷で体への負担が少ない方法を選ぶはず。そんな患者ニーズを捉えた同院には、開院4年目ながら評判を聞きつけ、膝痛を抱える患者が多く訪れている。「手術は患者さんにとって一大事。一例一例を全力で臨みつつ、技術の修練や設備の徹底、痛みを極力減らす工夫を第一に考えています」と東院長。常に「患者本位の治療とは」を考え実践する頼れる先生だ。



## 東裕隆 院長

◎あすまひろたか / 1992年北大医学部卒業。市立札幌病院救急部勤務。93年北大医学部整形外科入局。2000年カリフォルニア大学（カリフォルニア）留学。03年博士号取得。市立札幌病院整形外科副院長を経て、07年に開院。09年に札幌人工関節セター開設。日本整形外科学会専門医など多数の資格を有する。

を手掛けており、人工

膝関節置換

術として高い評価を得ている。

従来の人工膝関節置換術は、15～30センチ

識や経験、院内設備だけではなく執刀する医師の手の器用さも必要で、習得は容易ではないという。そのため、小皮切を実践できる医療機関は極めて少ない。同じ手術を受けるなら、小さな傷で体への負担が少ない方法を選ぶはず。そんな患者ニーズを捉えた同院には、開院4年目ながら評判を聞きつけ、膝痛を抱える患者が多く訪れている。「手術は患者さんにとって一大事。一例一例を全力で臨みつつ、技術の修練や設備の徹底、痛みを極力減らす工夫を第一に考えています」と東院長。常に「患者本位の治療とは」を考え実践する頼れる先生だ。

# 全国屈指の執刀実績。人工膝 関節置換術のプロフェッショナル



骨の損傷部を取り除き、滑らかな動きを再現する人工関節を固定